

# 復興推進会議（第32回）

## 議事要旨

1 日 時：令和3年11月26日（金） 10:20～10:32

2 場 所：官邸2階 大ホール（一部オンライン形式）

### 議事の概要：

#### （1）国際教育研究拠点の法人形態等について

資料1に基づき、西銘復興大臣から報告が行われた。

#### （2）出席者からの発言

上記に関して、出席者から

○新拠点の研究テーマについては、廃炉やエネルギー・環境などに関する研究テーマを提案しており、今後具体化が重要。関係機関から新拠点への役員派遣等、運営にも携わってまいる。

○地元で活躍する人材の育成、高等専門学校との連携。

○福島浜通りの未利用地を活用した、この地にしかない実証・実装フィールドの整備も必要。引き続き、成果の産業化の仕組みを整え、雇用の創出を図り、育成された人材の受け皿を創出。

○最先端技術を活用した、環境への負荷を低減する持続的な農林水産業の構築に関する実証研究等への取組。

○放射線科学・創薬医療分野について、国内ネットワークの構築、オールジャパン体制での研究の実施。人材育成について、連携大学院制度の活用や福島工業高等専門学校等との連携の実施。

○放射線科学・創薬医療の支援の分野での協力。

- 放射性物質による環境汚染に関する自然科学的研究等。
  - 国際教育研究拠点構想と国全体の科学技術・イノベーション政策や原子力政策との連携
  - 医療用をはじめとする RI の国内製造や安定供給体制の確立に向けた取組との連携
- 等について発言があった。

### (3) 内閣総理大臣挨拶

最後に、岸田内閣総理大臣から、下記の発言があった。

- 先月、岩手・宮城・福島3県の被災地を訪問し、被災者の方々などから車座で地域の実情をお伺いした。
  - これまでの被災地の方々の絶え間ない御努力により、復興が着実に進展している一方で、地域によって状況が異なり、残る課題にしっかりと対応する必要があると実感。
  - 特に、本日議論した国際教育研究拠点の整備は、福島の復興の大きな夢や希望となるとともに、我が国の科学技術力・産業競争力の強化にも資するもの。
  - 本日取りまとめた内容に基づき、関係大臣におかれては、自らのプロジェクトとして、
    - ・国内外に誇れる研究テーマを具体化し、そうした研究開発活動を産業化や人材育成につなげること
    - ・この拠点が司令塔機能を十分に発揮することができるよう、既存施設の統合も含め、本日決定した法人形態の実現に取り組むことなどについて、引き続き積極的に対応いただきたい。
- 今後、本年度中により具体的な拠点の基本構想を策定し、新法人設立の

ための法案を次期通常国会へ提出した上で、来年夏には研究開発計画を取りまとめてまいる。

私も、事情が許せば、早急に現場を訪問する機会を作りたい。

○「東北の復興なくして、日本の再生なし」。

引き続きこの強い決意の下、「閣僚全員が復興大臣である」という意識で、一日も早い被災地の復興に取り組んでいただきたい。

(以上)